

# あやとり

発行：那須塩原市介護  
サービス相談機関  
「介護相談室」  
発行日：2008年  
9月25日

あやとりは、介護サービス利用者と介護相談室を結ぶ季刊紙です。



## 黒磯駅誕生

国道や鉄道ができる前の黒磯は、熊川・那珂川・余笹川沿いを中心に大原間村・黒磯村・寺子村など、五十程の村がありました。奥州街道沿いの鍋掛や越堀は、宿場として賑わい、越堀宿からは那珂川を利用して舟で米などの荷物を水戸の方まで運んでいました。

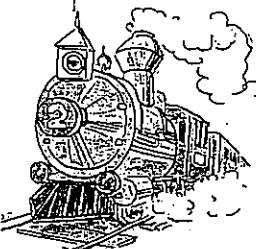
明治十九年、黒磯に東北本線が敷かれ、黒磯駅が誕生しました。

当時の人は、火を吐きながら走る機関車を見て、「火の車」と恐れていました。

それまでは歩いて東京へ行くには四、五日もかかりましたが、汽車を利用して行けるようになり、便利になりました。

黒磯駅でたくさんの方が降り降りするようになると、駅前には馬車や人力車がお客さんを待って並んでいたそうです。

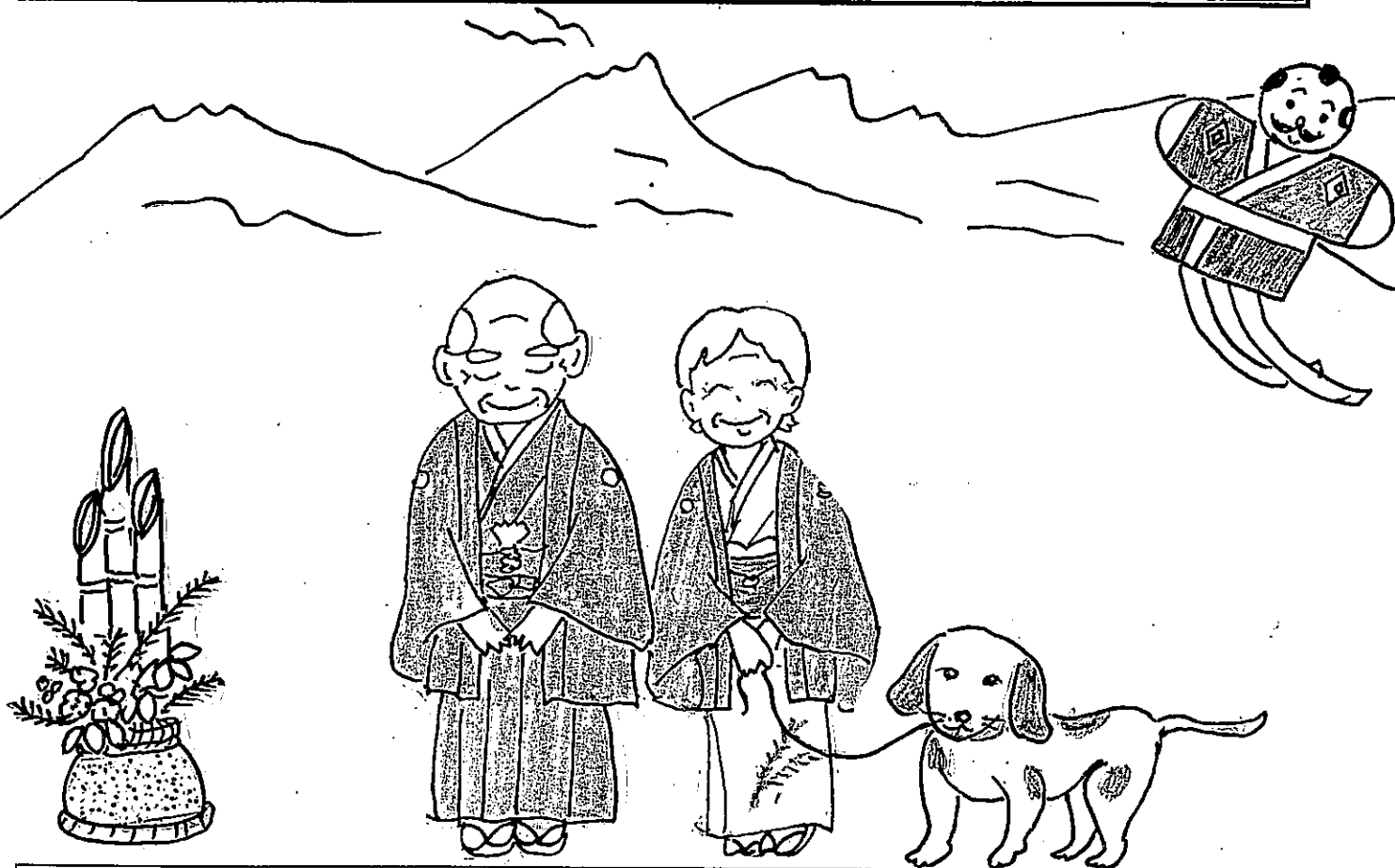
車社会の現代、歩く事の少なくなった若者達を尻目に「昔鍛えたから足腰が丈夫だよ」とお話をされる年配の方が頼もしいですね。



# あやとり

発行：那須塩原市介護  
サービス相談機関  
「介護相談室」  
発行日：2008年  
12月25日

あやとりは、介護サービス利用者と介護相談室を結ぶ季刊紙です。



## 介護相談室のふり返り

平成十二年、介護保険制度の発足と同時に誕生した介護相談室です。利用者や家族の代弁者として皆様からいろいろなお話をお聞きしました。中には行政や事業所にお伝えすることも多々ありました。何より気持ち良く相談員を受け入れてくれた事業所と気楽にお話してくれた利用者や家族の皆様のお陰で活動も軌道にのりました。皆様からお聞きしたお話は良いことも悪いことも利用者の声として各事業所や行政へ集約してお知らせしています。

事業所はミーティングなどで取り上げて参考にして下さり、マイナスイ見は次回には改善され、事業所の努力が目に見えました。

職員の意識でこうも介護が変わるのだと実感しております。食事は温かいものは温かく、好きな方を選べる選択メニューや、コーヒー・お茶など好みのものが飲めるようになるなど、改善点は取り上げたらきりがありません。

施設は個人を大事にした介護へと大きく変革しています。「ほうじ茶だけで無くたまには緑茶が飲みたいなあ」と当初お聞きしたご意見も今は過去のものです。

介護保険制度が利用者の為に良い制度となるように、これからも皆様からお話をお聞きしていきたいと思えます。

介護相談室統括 本間 みつ子



# あやとり

発行：那須塩原市介護  
サービス相談機関  
「介護相談室」  
発行日：2009年  
3月25日

あやとりは、介護サービス利用者と介護相談室を結ぶ季刊紙です。



## 介護サービスを利用して前向きに

◆私はデイサービスを利用して一年になります。病で歩行困難になり手術をしました。退院後リハビリのため、すぐデイサービスを利用しました。利用者の中では若い方で抵抗を感じましたが、リハビリが目的だったので嫌だと思っただけではありません。リハビリを続けるうちに、車椅子から杖になり、今では杖無しでも歩けるようになりました。

「そのうち車の運転ができればいいな」と夢を描いています。ここまで頑張れたのは後押ししてくれたデイの仲間と陰で応援してくれた職員さん達の温かな励ましと支えであったと思っています。

◆私は長年の病で、車椅子とベッドの生活をしています。

介護保険制度ができ、デイサービスを利用するようになりました。職員さんが優しく自分に合った対応してくれました。車に乗る時もおんぶや抱っこなど、身体に無理のないように考えてくれます。すべて夫に介護して貰っていたので夫にも良かったと思います。

週に一回、訪問看護も受けて、看護師さんとの風船バレーは体力維持に欠かせません。二、三百回以上続け目標を立てています。背筋の伸びることが嬉しいのです。

個々に対応してくれるデイサービスと訪問看護のおかげで次々に起こった体の不調を乗り越えています。

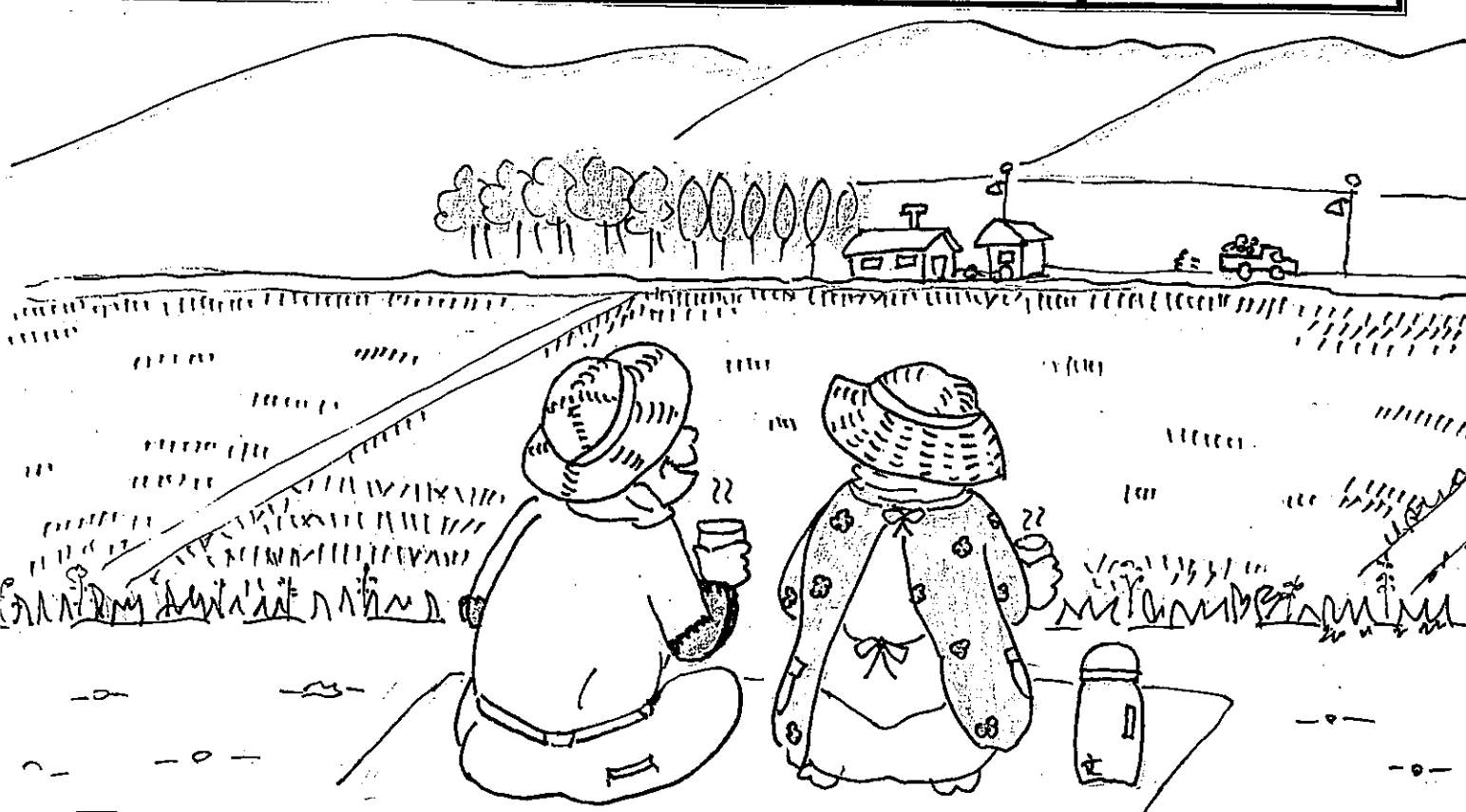
なにより「今度は俺の番」と全てを受け入れてくれる夫の力は一番の支えです。

# あやとり

あやとりは、介護サービス利用者と介護相談室を結ぶ季刊紙です。

第 34 号

発行；那須塩原市介護  
サービス相談機関  
「介護相談室」  
発行日；2009年  
6月25日



栃木弁でくつちやべろう

昨今、若手お笑いコンビが栃木弁を使い、人気が出ています。

栃木県北も都会との差がなくなり、一般の会話に栃木弁を聞くことは余りありません。

皆さんとの会話の折に、古き良き時代の方言に触れると当時の生活の温もりが思い出されてなりません。

お晩方(こんばんは)と井に煮物を入れて持って来てくれた隣のおばちゃん  
チャップポ(帽子)を禿頭に必ず被ってやって来た  
せな(兄)

他県からの転校生に

行ってすけて(手伝って)や

おお！こわい(疲れる)や

ごせやけてさ(イライラする)や

しこつてんじやない(上品ぶる)や

ぶちかる(座る)や

親父にぶんぬけ(そっくり)

等、言ったら怪訝な顔をされた子供の頃の思い出懐かしい童謡の一節のように生きいきと使われていた話し言葉が次々に浮かんできます。

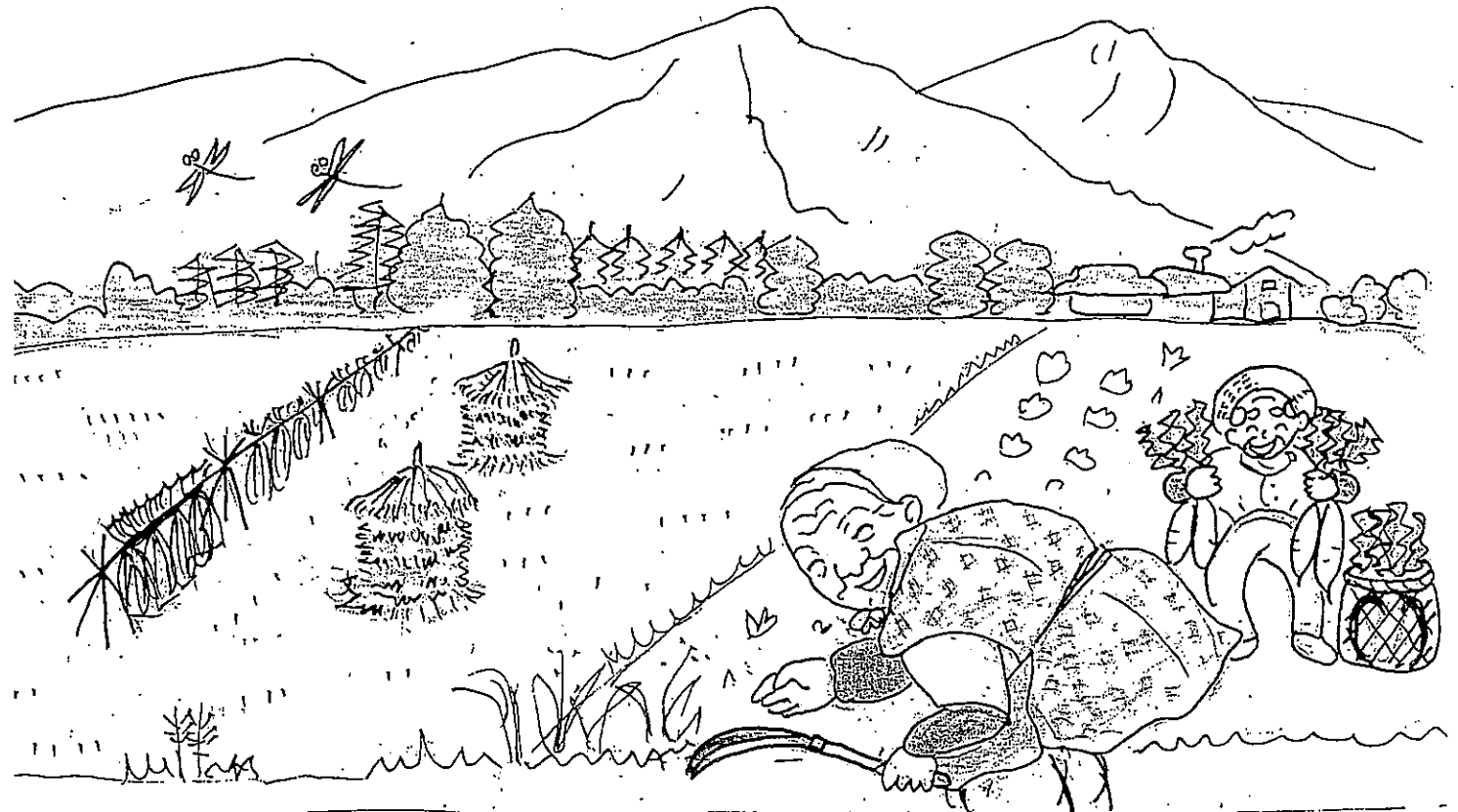
味ある栃木弁が廃れて行くのは寂しい限りです。おおいに栃木弁でくつちやべって欲しいと思います。



# あやとり

あやとりは、介護サービス利用者と介護相談室を結ぶ季刊紙です。

発行：那須塩原市介護  
サービス相談機関  
「介護相談室」  
発行日：2009年  
6月25日



今年って、どんな年？

カレンダーをめくってみましょう。

今年の十五夜は、十月三日と遅くなっています。

陰暦は、満月が月の十五日になるようにしており、十九年に七回の閏(うるう)月を置きました。

今年「五月」と「閏五月」と二回あったので、「中秋の名月」が十月になったのです。

昔は五月が二回あると、「柏餅が二回食べられる」と喜んだことを思い出しました。

デイサービスでもその話になりました。

「軒先に菖蒲や餅草を挿して魔除けにしたネ。その光景も無くなり寂しい。」

船乗りは陰暦が頼りで、「太陽暦になつては困る」と最後まで訴え続けたらしいよ。

若い頃の思い出に話は弾みました。

それから、今年四十六年振りに日本で「皆既日食」を見る事が出来ました。天候の関係や、地域によって、楽しみにしていた人達の中でも、見られた人は少なかったようです。

また、今年「土用の丑の日」が、七月十九日と七月三十一と二回ありました。七月に二回あるのは、何と二百三十一年振りだそうです。

思うに今年はずいぶんいい年ですね。



# あやとり

発行：那須塩原市介護  
サービス相談機関  
「介護相談室」  
発行日：2009年  
12月25日

あやとりは、介護サービス利用者と介護相談室を結ぶ季刊紙です。



## 冬のくらし

以前はお正月が来ると「一つ歳をとった」とため息がでたものですが、今日では冬の過ごし方も随分変わり、当時をしのぶものはほとんどありません。

昔は雪が三十センチも積もり、軒下には長いつららが下がりました。

家の中の仕事が多くなり、稲藁で藁やぞうり、俵や縄、こもなどを作りました。

山にも大切な仕事があり、下刈りと木の葉さらいは春に向けて欠かせません。木が眠っているこの時期に枝を落とすのは、木が夏に向かって生長するためです。

切り落とした枝は風呂やいろりの燃料に使い、葉は稲藁に混ぜて馬の寝床とし、やがて糞と混ざって畑の肥やしに使いました。このように、那須下ろしの寒風の中、仕事に精をだしたものです。

「お正月は晴れて米のめしが食べられる」と喜んだのも、普段が雑穀とぞうりを中心とした簡単な食事だったからかもしれません。

元日の朝の雑煮は野菜のたつぷり入った醤油汁で、切り餅は小さいと貧乏げだといって一切れでお椀の量になるくらいに大きく切って入れました。お煮しめ、なます、きんぴら、昆布巻き、数の子、黒豆、干し柿（まめまめとくりくりがき回すように）を食べました。魚は塩引きやさがんぼです。

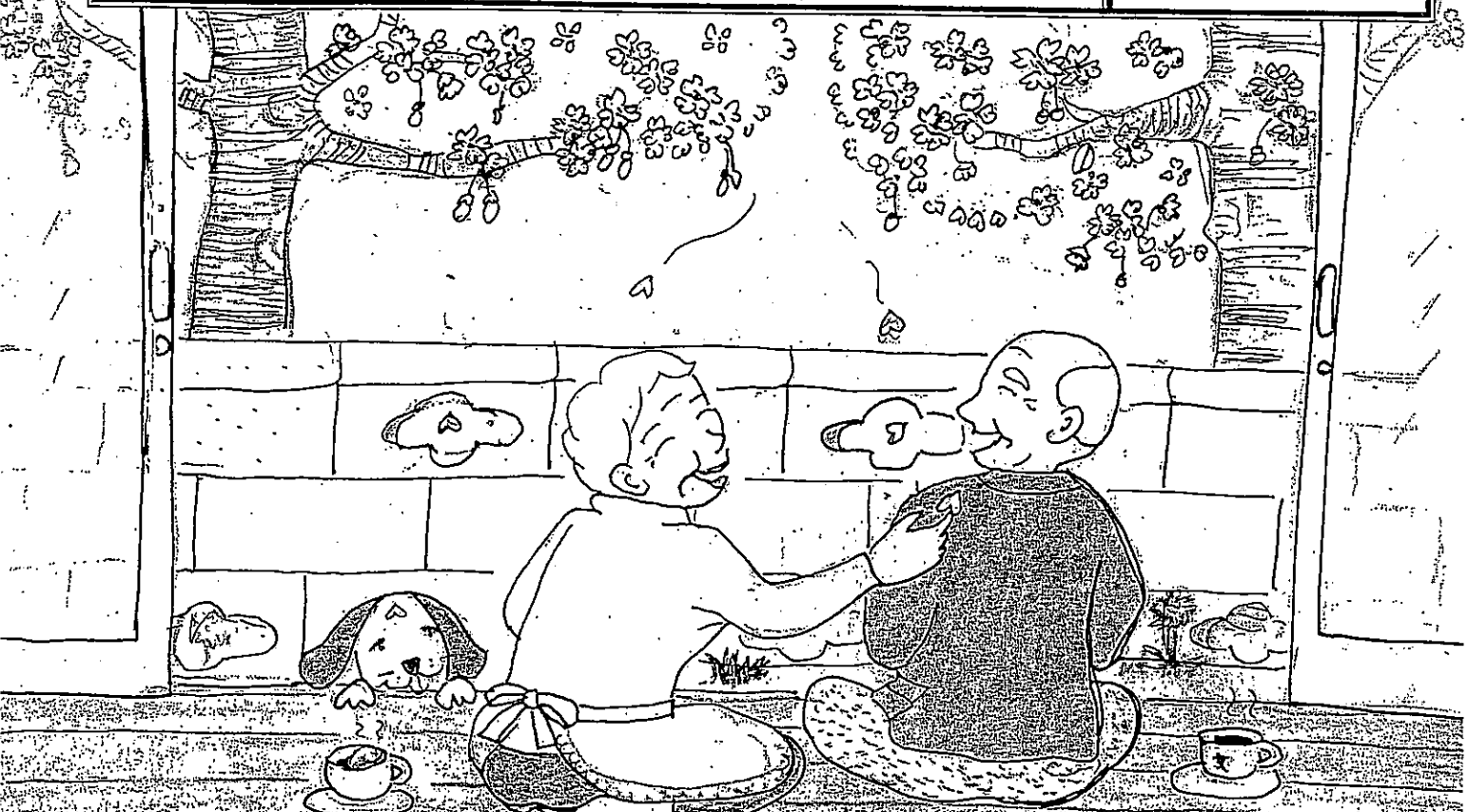
食生活が豊かになった現代でも、正月料理は変わらないような気がします。しかし日常の食生活が質素だったからこそ、今とは比べものにならないと馳走だったのでしょ。



# あやとり

あやとりは、介護サービス利用者と介護相談室を結ぶ季刊紙です。

発行；那須塩原市介護  
サービス相談機関  
「介護相談室」  
発行日；2010年  
3月25日



## 介護相談室は十年になりました

介護保険制度が出来ると同時に相談室が発足して十年がたちました。

「介護保険とは何か」「ケアマネジャーさんは何をする人か」など最初は利用者さんも私達も戸惑いの日々でした。現在は制度を上手に利用して、利用者さんご家族も自分を大切に作る時代へと変わって来ました。

相談員は、利用者さんやご家族のご意見を行政や事業所さんへの橋渡し役として活動し、日頃の訪問を通して、今利用者さんはどんな気持ちでいるのか、などの小さなご意見も大切にしています。

皆様のご理解により、那須塩原市の介護サービス事業所さんの質の向上への意気込みは高いものです。今では無くてはならない介護保険制度ですが、まだまだ皆様のご意見をお聞きして、さらなる充実と安心出来る制度として成長して欲しいと願っております。

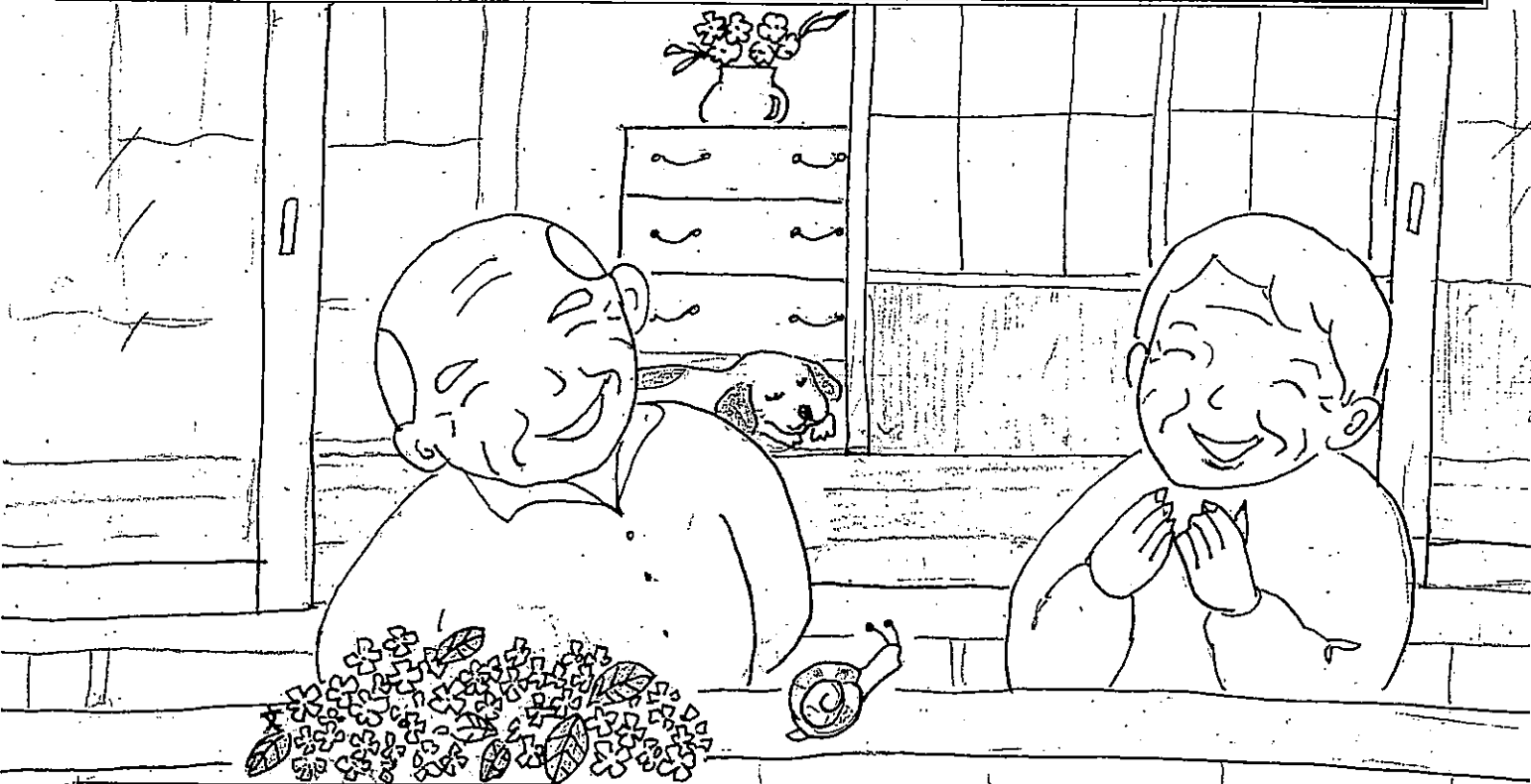
那須塩原市は合併してから五年が過ぎ、西那須野、塩原地区への相談員の活動も増えてまいりました。各施設でお会いした時はお気軽に声を掛けていただけましたら幸いです。

介護相談室統括 本間 みつ子

# あやとり

発行；那須塩原市介護  
サービス相談機関  
「介護相談室」  
発行日；2010年  
6月25日

あやとりは、介護サービス利用者と介護相談室を結ぶ季刊紙です。



## 水のない生活から

明治十八年から開削が始まった那須疎水。その起工式に当たる四月十五日を開こん記念祭と定め、先人の苦勞や開拓魂を偲び子孫も開拓魂を受け継いで行こうと烏ヶ森公園でお祭りをします。

今年は何三十年祭のお祝いが盛大に行われました。

水のない過酷な生活を強いられた人々、一里も二里も歩いて箒川などへ水を汲みに行き大切に運んだ水は飲み水の他、食器を洗った水で手足を洗い最後に畑にまいたそうです。その心は現在にも引き継がれ米のとぎ汁は捨てずに家庭菜園や花壇の水遣り、お風呂の残り湯は洗濯に使うなど、毎日の生活に活かされています。

## 弘法清水

むかし、蛇尾川に橋がなかったのです、川に渡し人がいました。ある日、一人のみすばらしいお坊さんが「渡して頂きたい」と頼みましたが、お金を持っていなかったのです。それからお坊さんは弘法大師だったので。それから幾日かすぎて急に川の水の流れが止まり、水は地下を流れて大田原方面に行つてから川に水が流れるようになりました。人にあわれみを示すことのできなかつた渡し人は、それから職がなくなつてしまつたのです。

「西那須野町史」より

荒涼として水がない風土を暗示している民話が生まれ語り継がれています。

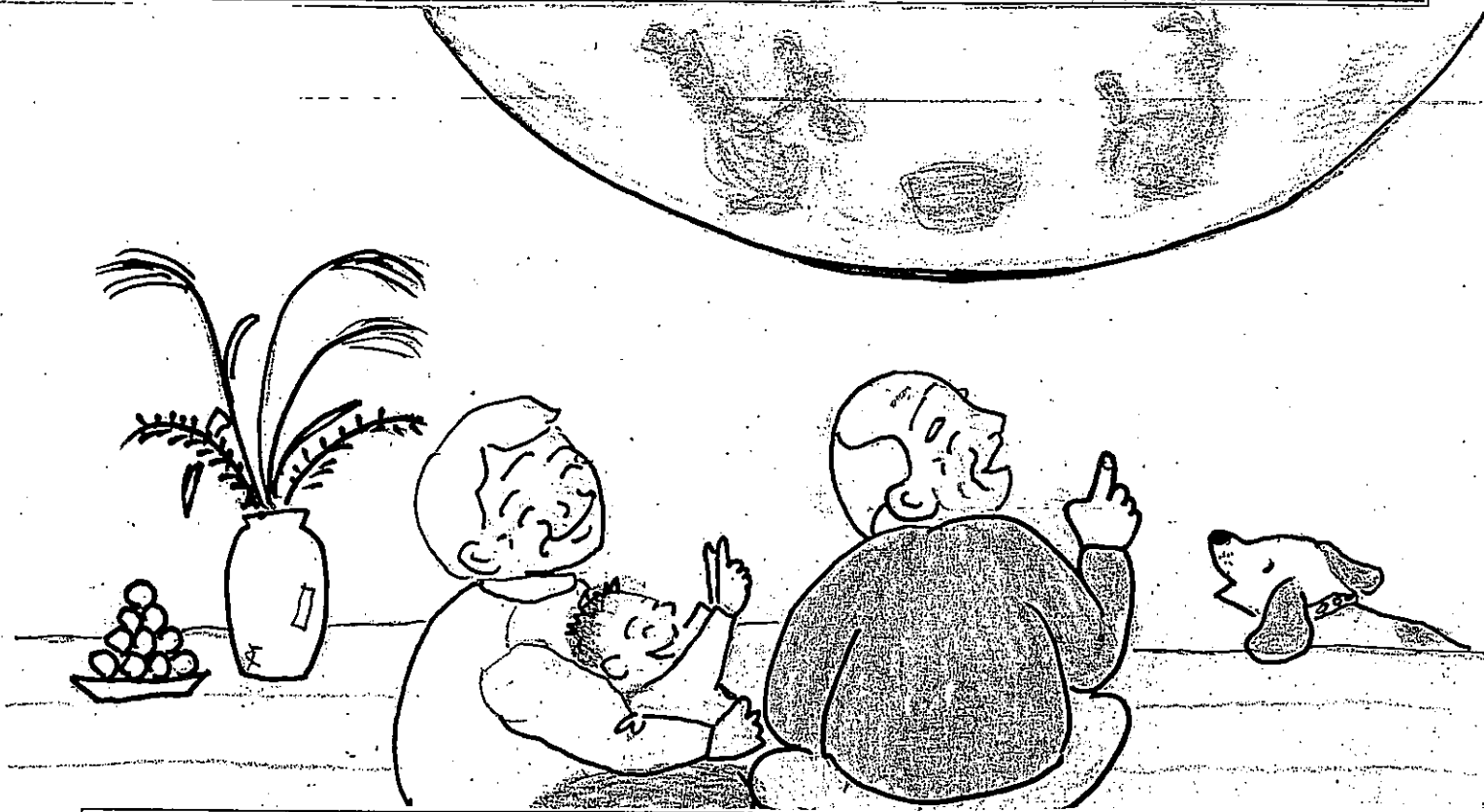


# あやとり

あやとりは、介護サービス利用者と介護相談室を結ぶ季刊紙です。

第 39 号

発行；那須塩原市介護  
サービス相談機関  
「介護相談室」  
発行日；2010年  
9月25日



## ♪ お月さま ☆ ☆

いにしえより、お月さまへの憧れや思いには深いものがありますね。

満月の夜、月の世界へ帰ったかぐや姫の物語  
童謡や流行歌

♪ 月がとつても青いから

遠回りして帰ろう ♪

口ずさめば青春の一頁が蘇ってくるのではないのでしょうか。

十五夜に穂芒（ほすすき）を挿し、新芋や栗、枝豆、団子を供え、豊作を祈る風習、又月の光で針に糸を通すことが出来れば裁縫が上達するとか、この夜にしぼった糸瓜（へちま）の汁をつければ肌が美しくなるなどいろいろな言い伝えが信じられて来ました。

月面着陸の現実も、神秘的な月の輝きを見ていると程遠い感じがしてしまうのは私だけでしょいか。

これからは月のきれいな季節です。たまにはゆっくりと月を眺めるのも良いですね。

祖母の膝 月にはうさぎ棲んでいて

# あやとり

あやとりは、介護サービス利用者と介護相談室を結ぶ季刊紙です。

第 40 号

発行；那須塩原市介護  
サービス相談機関  
「介護相談室」  
発行日；2010年  
12月25日



## 歳時記

### 除夜の鐘

大晦日の伝統行事と言えば除夜の鐘。人間の煩惱（欲望、憎しみ、嫉妬や執着など）の数は百八つあり、その煩惱を除夜の鐘の音で一つひとつ清め、消していくそうです。百七回は今年のうちに。最後のひとつは一年間煩惱に惑わされないようにという願いを込めて新年に打つと言います。

### 年越しそば

年越しそばは年を越さないで食べるのがルールだそうです。年内に食べ切らないと翌年の金運に恵まれなうと言いう言い伝えがあります。現在は好きなものを食べて年を越す人も多いそうです。時代も変わっていくものですね。

### 元旦

初日の出は縁起の良いもので千葉県の大吠崎が本州では一番早く見られるそうです。初めて昇る太陽の巖かな光に一年の無事を祈ります。

